



ボランティアがもたらす効果



今日27日(月)の朝、交通指導から帰る途中、6年生の子供が、学校横の通学路を箒で落ち葉掃きをしてきました。私が「どの心で、朝のボランティアに取り組んでいるの?」と尋ねたら、「帯西イエローの心です。」と即答してくれました。「なぜ、イエローなの?」と問いかけると「ボランティアで、人のために行動することで、他の場面でも活かすことができるからです。」と答えてくれました。子供たちの帯西イエローの心「働く喜びをもち、みんなのために役立つ」という心にふれて、朝から清々しい気持ちになりました。

米心理学者マズローは、「経済的に豊かになり、欲しいモノはおおむね手に入るようになると、人間は自分のためではなく、環境保護やボランティア活動など社会全体の幸せを考えて行動するようになる。」と社会の発展などに伴い、人間の欲求も進化していくと分析しています。

先進国の集まりである経済協力開発機構(OECD)が、国民の豊かさを示す指標として考案した「幸福度」。11の測定項目には収入や安全性とともに、社会とのつながりが入っています。成熟した国では、助け合いをはじめ他者と関わっていくことがますます重要になってきます。

ひこうきぐも vol.6

ニューオリンズの観光拠点であるフレンチ・クォーターは、ミシシッピ川に面していて、歩いて観光できる町です。その名前から、フランス風の町並みをイメージしてしまいがちですが、最初に入植したフランス人が築いた建物は、火事で消失してしまい、次に入植したスペイン人によって、現在の町並みが築かれました。

ここは人を引き寄せる不思議なエネルギーがあるのか、世界中から観光客、大道芸人、ジャズメン、絵描きたちが集まってきます。日が沈み、辺りが暗くなると、そのエネルギーの一端を垣間見ることができます。バーボン・ストリートは、この町の中心の通りで、夜になるとどこからともなく人々が集まってきます。ライブハウスやレストランは多くの観光客で賑わいを見せます。また、ジャズマンたちが通りでジャズを演奏し、大道芸人たちがそれぞれ趣向を凝らしたパフォーマンスを見せてくれます。

私は、アメリカに来たときから楽しみにしていた、プリザベーション・ホールへと足を運びました。ここはデキシーランドジャズの保存を目的としたホールで、外から見るとボロボロの小屋といった風情です。中も何の飾り気もなく、椅子やテーブルなどありません。少し不安な気持ちになってきましたが、ジャズの演奏が始まると、そこに詰めかけた人種、性別、年齢の違う様々な客たちが、一体となり、その見事な演奏にぐんぐん引き込まれていきます。そこに集まった全ての人が音楽を心の底から楽しんでいます。私自身も、ルイ・アームストロングを生んだニューオリンズの夜を満喫することができました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。